

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①学校のミッションや生徒の実態、ニーズに即した魅力と特色づくりを推進する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努める。 ③持続可能な社会の造り手として必要な資質・能力を育成するため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	①新教育課程の実施に伴い、生徒のニーズ及び選択科目の設定等に関して学校教育目標との整合を検証する。 ②インクルーシブ教育実践推進校として、共生社会の実現を目指して全ての生徒に対してインクルーシブな取組を構築する。 ③ＩＣＴ機器の利活用を促進するとともに、板書や発問なども活用して生徒の主体的な取組を重視した授業改善を目指す。	①生徒による授業評価の結果や進路結果、選択科目履修者数から生徒のニーズを把握し、今回の教育課程検討につなげる。 ②修学旅行・校外学習等について、学校教育目標を踏まえつつ、学校全体の考え方と生徒のニーズを鑑みながら検討調整する。 ③全校生徒対象の講演会及び教員対象のインクルーシブ講演会を実施する。 ④研究授業や教員相互の授業観察を推奨し、ＩＣＴ機器を利活用した生徒の主体的な取組を模索できる機会を提供する。	①生徒による授業評価や魅力特色アンケートは、肯定的な意見であったか。 ②実際に引率した学年団と情報を共有し、3年程度の期間ごとに再度検討する。 ③講演会のアンケート結果が、共生社会の実現に向けて前向きな意見であったか。また、講演会の内容は、授業や生徒対応に反映することができたか。 ④教員相互の授業観察や研究授業を行うことができたか。また、生徒の主体的な取組を促すことを目的としたＩＣＴ機器を利活用できているか。	①生徒による授業評価の結果は肯定的な回答の割合が高かった。また、令和8年度から実施する教育課程に新設された科目について、一定数の選択希望者がみられた。 ①修学旅行・校外学習等については、引率した学年団からの情報を共有し、より効果的な内容につなげることができた。 ②講演会のアンケート結果から、共生社会の実現に向けて、理解が深まった様子が見取れた。 ③ＩＣＴ機器の利活用について教員間で積極的な情報共有が行われ、生徒の主体的な取組につながった。	①令和8年度以降の教育課程が生徒のニーズに応えているか、卒業生にアンケートを行い、実体の把握に努める。 ②互いに尊重しあう態度の育成を継続的におこなっていく必要がある。 ③電子黒板の試験的な導入を行ったクラスでの実践例から、令和8年度以降の本格導入に向けてフィードバックを行う。	①令和8年度からの生徒のニーズに対応した教育課程に大いに期待する。生徒の自己実現に向けたサポートにも重点を置いて欲しい。また、授業改善について、学校全体で取組んで欲しい。 ②インクルーシブ教育実践推進校としての取組みをさらに推進し、生徒の主体的な学習活動への取組をより一層図って欲しい。 ③ＩＣＴを活用した授業展開により、生徒の興味・関心をさらに高め、自ら学びに取組むという意欲を醸成して欲しい。	①令和8年度からの教育課程については実施3年後に検証を行うが、引き続き本校の学校教育目標や生徒のニーズについては常に把握する必要がある。 ②インクルーシブ教育実践推進校として6年目を迎えるにあたり、共生社会実現に向けた生徒・教職員の意識の向上に継続して取組む。 ③ＩＣＴの利活用により、生徒自らが学びに取組む意欲を醸成する必要がある。	①生徒や保護者に対して、教育課程や選択科目について説明会を開催して分かりやすく行う。また、学校教育目標や生徒のニーズとのマッチングについて検証を行う。 ②共生社会の実現に向けた講演会について、その対象者を検討し、実施する。 ③教科・科目内で共通的なＩＣＴ利活用を行う等、組織的な取組みを継続する。
2	生徒指導・ 支援	①他者を思いやり、尊重できる自立した生徒、自らの夢や目標に向かって果敢にチャレンジできる生徒、心身ともに健やかで、逞しい生徒の育成を図る。 ②規律と秩序のある生徒指導。きめ細かい支援を確立し、一人ひとりが正しい道徳観や社会性を醸成できるような体制を構築する。	①学校行事、委員会活動、部活動等、生徒主体の活動経験を積み重ね、社会の変化に柔軟に対応できる思考力、行動力を向上させる。 ②学校行事では、多様性を重視しながら取り組める仕組みを構築し、インクルージョンの意識向上を図る。 ③学校生活での規律徹底や挨拶、マナーの向上と公共交通機関や自転車乗車マナーを向上させ、お互いを思いやる気持ちを醸成する。 ④教育相談係とＳＣやＳＳＷとの連携の強化及び生徒情報の共有する。	①生徒主体の活動機会を広げ、変化し続ける状況や条件、ルールへの理解を深め、自ら進んで創意工夫を重ねられるように支援する。また、他学年との交流を図り、多様性を意識し、個を尊重できる仕組みを構築する。 ②ポスター制作やあいさつ運動、マナーアップキャンペーン、スケアード・ストレート方式による自転車安全教育や各講演会等を活用し、意識やマナーの向上や他者を思いやる気持ちを醸成する。 ③個々の生徒に対して組織的な対応ができるよう家庭とＳＣ、ＳＳＷや外部機関との連携体制を構築する。	①生徒主体の活動を行うことができたか。委員長会、部長会等のリーダー主導の活動を行うことができたか。 ②他学年との交流ができる行事を行うことができたか。 ③それぞれの講演会等を実施した上で、意識調査などの振り返りをおこない、生徒へのフィードバックを行うことができたか。 ④教育相談係とＳＣ、ＳＳＷと家庭・外部機関の連携体制の構築ができたか。	①委員会内では事業推進に関するアンケートの実施や意見交換を活発に行うことができた。 ②学校行事（体育祭・文化祭・クラスマッチ等）における各委員会の役割分担及び連携をスムーズに行うことができた。体育館耐震補強工事に伴い、使用場所の工夫やインクルージョン的な意識向上改革を進めることができた。クラスマッチでは、新種目の設置を行うことができた。 ③自転車通学者への県民の方からの意見は減少したが、ヘルメット着用率が低いので、対策が必要である。公共交通機関におけるマナー向上が十分でなかった。3者による意見交換の場の設定ができなかった。	①意見集約の方法をアンケートと全体会での場のハイブリッド方式で行えるようにする。 ②イベント時だけでなく、日常の学校生活の中で、各自の役割や責任、個の違いを尊重できる交流の場を設置する。 ③交通道德については、保護者や地域の力を借りながら生徒の意識を変えていくことが必要であり、生徒会生徒ともタイアップするなどして、自転車ヘルメット着用率の向上を図りたい。 ④支援が必要な生徒に関しては、早期の情報共有とともに、教育相談、ＳＣ・ＳＳＷや専門機関と連携し、課題解決を図りたい。	①「自分たちの学校を自分たちでつくっていく」「誰にとっても居心地の良い、学びやすい学校づくりを自分たちの手で進めていく」といった生徒主体の活動をさらに推進して欲しい。 ②広く社会に関心を持ち、同時に社会生活に必要なルールやマナーをきちんと身に付けるとともに、様々な学校生活の場面で他者を思いやる心の育成を図って欲しい。	①生徒が主体的となり、他者理解を含めた学校行事を企画するなど生徒自らがつくりあげる学びの場について検討を進める必要がある。 ②霧高生としての自覚と責任が高められるような効果的な指導について、引き続き担任・支援担任や学年団と協力して強力に推進する。	①運営委員会、委員長会、部長会を中心として、生徒が自ら考え、意見交換し、策を練って実施する活動をさらに充実させる。 ②学校生活の様々な場面において社会生活に必要なルールやマナーについて触れ、揺るぎない霧高生の育成に取組む。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりがより良い進路選択ができるような能力の育成、および生徒・保護者等に対して適切な内容と量の情報を受け取れるような機会の充実を図る。	①生徒の様々な進路選択に寄り添えるよう、総合的な探究の時間の内容や説明会のあり方を再検討し、より高い目標に向けた計画的な取組を推進する。 ②主に英語の資格・検定試験に関して、その成果を進路選択に生かすことができるような指導を構築する。	①生徒自らが適切な進路選択が行えるよう、進路先となる上級学校との交流機会を増やし、総合的な探究の時間での進路計画の充実を図る。 ②資格・検定試験の広報を充実させるだけでなく、英語科と連携した指導を前向きに検討する。	①前年度と比較して、進路先の説明会や交流会の機会を増やすことができたか。 ②生徒の目的意識を高めるような広報を行うことができたか。また、具体的な指導法を実践することができたか。	①各学年で、総合的な探究の時間のプログラムに上級学校による講演会を年に2回実施し、それぞれねらいを持つて生徒に取り組みせることができた。 ②夏季休業中に7大学を招いて、生徒・保護者向けの説明会を開催し、延べ400名以上の参加者を得ることができた。 ③実用英語技能検定の校内受験者は延べ120人以上で、2級・準2級の合格率は約30%であった。	①事前・事後指導を充実させ、生徒の進路選択に資するよう、意義のある講演会となるような工夫をする。 ②夏季休業中の説明会だけでなく、保護者対象の説明会の機会を増やし、より深い進路理解を促せるよう図っていく。 ③合格率の向上を図るため、書籍の貸し出しや講習など、英語科と協力する方策を実施する。	①生徒自らが適切な進路選択ができるよう総合的な探究の時間を中心としたプログラムを立案し、実行して欲しい。 ②保護者を対象とした進路講演会を継続するとともに、卒業生による体験報告会の実施を検討して欲しい。 ③英語の資格・検定試験の合格率の向上に向け、当該教科との連携を図るとともに生徒の英語学習方法の確立に取組んで欲しい。	①総合的な探究の時間を中心に、自己理解を深化し、生徒自らが適切な進路選択ができる取組みについて継続していきたい。 ②生徒や保護者等に向けて適切に進路情報を発信することができた。 ③英語の資格・検定試験は一定の成果をあげられた。合格率の向上へ向けた取組を進める必要がある。	①総合的な探究の時間を充実させ生徒自らが適切な進路選択ができる仕組づくりを目ざす。 ②保護者等を対象とした説明会について継続的に取組み、進路選択に関する理解を深化させる。 ③英語科と連携し資格・検定試験の合格率向上や英語学習方法の確立に努める。
4	地域等との協働	①地域との交流や協働、地域貢献等を通じて、地域と共にある学校づくりに取り組む。 ②在校生や保護者等地域社会に対して、本校の教育活動についての理解を深めてもらうための情報発信を行う。	①霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、地域との交流・連携事業で生徒による広報活動の推進を図る。 ②デジタルサイネージを活用して生徒に本校の魅力を校内発信し、生徒自らが本校の魅力を発信できる仕組みを構築する。 ③ホームページの迅速及び定期的な更新により、保護者や地域の方々への情報伝達を図る。	①全公立展や学校説明会等の校外での広報機会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用し、生徒による広報活動の機会を提供する。また新たな広報グッズの製作により霧コンシェルジュ等への登録者数増加を目指す。 ②デジタルサイネージでは、情報発信とともに部活動結果や行事の様子などを随時発信し、本校の魅力を生徒に伝える。 ③ホームページの全体的な体裁を整え、閲覧者が情報を獲得しやすいページ構成へ改善を図る。また学校行事や部活動等、本校の魅力的な部分はホームページに掲載し、迅速な更新により魅力的なホームページによる閲覧数の増加を図る。	①全公立展や学校説明会では、霧コンシェルジュやボランティア生徒を活用できたか。また、新たなグッズを製作し、登録者増に向けて周知できたか。 ②デジタルサイネージで霧高の魅力を発信することができたか。 ③ホームページでは、学校行事や部活動等の発信ができたか。また、新たな本校の魅力発信ができたか。	①霧コンシェルジュについては全公立展では積極的に広報活動を行い、学校説明会では司会・行事説明・動画出演・校舎案内担当と中心的な活躍を見せた。事前準備においても従事し、広報に大いに貢献した。また、広報物品としては霧コンシェルジュ用キャップと横断幕を作成し、体育館を使用しない説明会の新たなスタイルを構築した。 ②デジタルサイネージは定着し、掲載コンテンツも部活動・行事・試験情報・日常的な連絡事項・図書関係等多岐に渡る。学校説明会でも来校者の注目を集めた。 ②ホームページについては部活動や霧高祭・修学旅行等の行事風景、説明会関係の情報更新ができた。	①霧コンシェルジュの活躍の場面を工夫・増加させるとともに、メンバー内で内容をブラッシュアップさせ、新たなメンバーに対しても生徒間で情報共有できるような組織的な発展を目ざす。また、説明会での登場場面の増加や、動画コンテンツの作成等にも携われるよう推進する。 ②令和7年度は、デジタルサイネージが定着し、日常の学校生活における発信を行うことができた。今後は掲載コンテンツの工夫や活用方法自体の検討を行っていききたい。 ②ホームページについては体裁の抜本的見直しを行うとともに学校の特色や学校行事・部活動の活躍を中心に更新頻度を上げる仕組づくりを検討する。	①霧コンシェルジュの活躍について、大いに評価する。例えば、生徒が学校説明会の企画検討段階から携わるなど、自らの体験に基づいた取組みについて検討して欲しい。 ②デジタルサイネージの活用について、強力に推進して欲しい。ホームページの更新頻度の改善や掲載内容の検討について積極的に取組んで欲しい。地域への情報発信とともに、地域の様々な団体との協働により、地域に根付いた学校となつて欲しい。	①霧コンシェルジュの活躍については一定の成果を収めることができた。今後は活動内容についてさらに充実させ、霧コンシェルジュ登録者増について、具体的な方策を検討する必要がある。 ②デジタルサイネージが定着し、様々なコンテンツを発信することができた。今後はサイネージの校内における位置づけを発展させ、本校の特色における取組として機能させていく必要がある。ホームページの掲載内容について、新たな情報や構成の見直しなど、閲覧や注目のしやすさに配慮した上で、情報発信を積極的に行うとともに、地域と協働し、地域から愛される学校を目ざす。	①今後は、活動状況の発信や学校説明会の企画立案など、生徒がより主体的に普及活動に取り組むことができるよう、活動内容について検討していく。 ②デジタルサイネージの活用について、多様な生徒の生活面における包括的な支援を担う視点を持ち、継続してコンテンツの発信を行っていく。ホームページの構成を全体的に更新し、安定した更新頻度による発信を進めていく。地域の教育活動への協力や地域団体との連携により、学習の機会や普及の取組など相互に効果が得られる仕組みを整備していく。
5	学校管理 学校運営	①保護者・地域から信頼され、生徒が安心して学べる安全で快適な学校づくりを行う。 ②自他の生命を尊び、大きな災害にも対応できる高い防	①体育館の耐震工事にあたり、行事等を支障なく行って、生徒が充実した高校生活を送ることができるようにする。	①各グループや学年団と緊密に連携し、前例にとらわれずにより生徒や保護者の心に響く行事の在り方を検討する。 ②防災訓練やD I G訓練を	①各グループや学年団との連絡調整が支障なく行われ、行事等が円滑に行われたか。 ②生徒へのアンケートで、防災意識が高まったと回	①耐震工事完成後も、暑さ対策のために配信で行事を行うなど、他グループと調整しながら柔軟に対応することができた	①卒業式、入学式についてもより良いあり方をさらに検討する。 ②防災意識をさらに高める効果的な訓練方	①入学式、卒業式等、節目節目の行事を大切にすることが、自分、まわり、社会を大切に考える素地になる。引き続きより良い在り方を	①生徒が本校を誇りに思う心を育むとともに、学習環境のさらなる改善を図る必要がある。 ②災害に対する危機	①50周年記念事業実行委員会と緊密な連携を図り、目標を達成する。 ②教員が速やかに

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月20日実施)	総合評価（3月30日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		災意識を育む。 ③不祥事や事故を未然に防止する職場環境づくりを行う。	②自他の生命を尊重する意識と、迅速に行動する危機意識を醸成する。 ③快適で使いやすい職員室環境を整備する。	通じて災害を自分事としてとらえる意識の醸成を図る ③オフィス環境改善事業を活用して机・イス・什器類の一新を図る。	答する生徒が増加したか。 ③教職員へのアンケートでほとんどの教職員が働きやすい環境になったと回答したか。	②防災意識の高まったと考える生徒が80%に達した。 ③95%の職員が働きやすさを感じていることを回答した。	法を検討する ③新たな職員室環境をさらに効率的に利用できるよう備品配置等を検討する。	検討していったほしい。 ②防災意識の高まりは大変喜ばしいこと。万一大きな災害が発生したら、およそ1,000人いる生徒さんは地域にとって大変大きな力になります。防災啓発(今までは防災訓練と表現)にあたり、地域との連携を深めていく必要を感じている。	意識と自他の生命を尊重し、自ら考えて行動できる意識を醸成するため、職員の防災体制を再構築する必要がある。 ③働きやすく風通しの良い職場づくりに向け、積極的に取り組む必要がある。	防災体制をとれることを目標に、職員の防災体制を再構築する。 ③心理的安全性の向上や風通しの良い職場づくりを目標に、同僚性を高めることにより安心感の醸成を図る。